

推敲あれこれ

橘 芳園×高野公彦

⑮



消してみました。

高野 この場合、カッコが無くても歌の意味はすぐ分かりますから、無いほうがスッキリしますね。

橘 信頼できる歌人の作品をみると、記号はあまり使っていないようです。

高野 おっしゃる通りですね。ところで歌の内容はいかがですか。男でも女でもなく、「その他」に○を記したい、と言ってますが……。

橘 思わずクスリと笑ってしまうユーモアが魅力の歌ですね。

コロナ禍の夕焼け空を飛行機が白線引きつ子の住む方へ
 コロナ禍の夕焼け空を飛行機が白線引きゆく子の住む方へ
 (原作)
 (改作)

◆記号に注意

高野 こんにちは。歌の推敲の仕方について、今月は橘芳園さんにお話を伺います。いつものように推敲例を用意してみました。「もしこれが自分の作品だったら、こう直したい」という具体的な例です。

アンケートに「男」「女」「その他」の欄ありて「その他」に丸を記してみた
 い (原作)

アンケートに男、女、その他の欄ありてその他に丸を記してみた (改作)

橘 原作は「」という記号を使っていますが、これは要らないと思いますので、

橘 この「白線引きつ」の「つ」は完了の助動詞ですから、口語では「引きました」ということになります。これでは風景に動きが無い。少し動きを持たせたほうが結句に繋がりがやすいと思って、「引きゆく」にしました。

高野 いいですね。飛行機が或る方向へゆつくり動いているイメージが浮かんできます。

◆地名の働き

ふるさとの波止場に満つる潮の香に幼き日々を懐かしみたり
 (原作)
 ふるさとの両津湊の潮の香に幼き日々を懐かしみたり
 (改作)

橘 原作では作者の思いは述べられていますが、情景が浮かんで来ません。それで地名を入れてみました。

高野 いいですねえ。これで佐渡・両津のイメージが浮かんで来ます。
橘 地名はいい働きをしますね。

高野 ええ。地名と人名、合わせて固有名詞といいますが、どちらも短歌では強力な味方です。

橘 宮先生は、歌の中で地名を生かす達人でしたね。

◆不要なルビ

秋色のパジャマで寝ればひそやかに夢から秋がはじまつてゆく (原作)
柿色のパジャマで寝ればひそやかに夢から秋のみぢ始まる (改作)

病む母の歌を作ると悩む夜夫のやさしさ胸にしみたり (原作)
病む母の歌を作ると悩む夜夫は熱き茶入れてくれたり (改作)

ゆゑ知らぬこの懐かしさ新美南吉の童話読みつつ胸熱き夜 (原作)
ゆゑ知らぬこの懐かしさ南吉の童話読みつつ胸熱き夜 (改作)

橘 生活を詠もうとすると、どうしても自分の思ったことをそのまま言いたくありませんが、少し我慢して具体的な動作を詠み込むと、読み手に伝わりやすくなります。

高野 ここから僕の用意した推敲例です。近ごろ、ルビが乱用されていますね。例えば「亡母」と書いて「亡母」とルビを振った歌をよく見かけますが、何でもルビで片付けるのは安易ですね。この歌は「童話」とありますから「南吉」は新美南吉に決まっています。だから新美は要りません。

高野 服装のオシャレを言うとき、「春色」とか「秋色」という言葉を聞きますが、僕にはどんな色なのか全然分かりません。そこで「秋色」を具体的に「柿色」に変えてみました。それに原作の下旬は具体性が無いので、仮に「秋のみぢ始まる」としました。

高野 それで「夫のやさしさ胸にしみたり」を「夫は熱き茶入れてくれたり」と直したわけですね。

橘 取り越し苦労のルビですね(笑)。宮柁二先生の作品を見ると、「亡母」とか「新美南吉」というようなルビは全く無いですね。

橘 これで映像が浮かんでくる歌になりましたね。私の好きな宮先生の歌で「法隆寺南大門前暑き日を黒き牛のゐて繋ぐれにけり」というのがあります。

橘 どんなふうに優しかったのか、読み手の頭に映像が浮かぶように詠むことが基本です。

橘 取り越し苦労のルビですね(笑)。宮柁二先生の作品を見ると、「亡母」とか「新美南吉」というようなルビは全く無いですね。

高野 ええ、『群鷄』の歌ですね。効果的で、全体の映像が鮮やかに浮かんで来ます。絵画のような歌です。

高野 改作は、いい歌になりましたね。端的に言いますと、「いい歌を作りたければ、そのコツは、思いを詠むより動作を詠むこと」ということですね。

高野 ええ、宮先生は安易なことはいし、余計なこともしない立派な正統派の歌人ですね。

橘 越後の人は、やはり真面目な人が多いです。

高野 ええ、字余りですけど(笑)。

橘 越後の人は、やはり真面目な人が多いです。

イラスト「鬼に金棒」(高野公彦画)